

2024年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人聖公会栄光学園聖ヤコブ幼稚園 園長 長尾晶子  
学校法人聖公会栄光学園聖ヤコブ幼稚園学校関係者評価委員会

1. 教育目標
  - 神さまにも人にも愛される子どもたち
  - お祈りや遊びを通して五感を働か様々な体験をして、神さまの愛を感じながら人との関わり方や人を思いやることを学び、心の成長へと繋げていく。
2. 本年度取り組んできた重点目標
  - 1) 教育方針でもある神さまの存在を昨年度より更に深く学び工夫しながら日々の生活の中で子どもたちの心に伝えていく。
  - 2) 教師が常に質の高い教育を目指していくために、教師同士がお互いに刺激し合い切磋琢磨しながら、より良い保育に努める。
3. 評価項目の達成及び取り組み状況

○聖書への学び    ○自身の保育の質を高める    令和6年度初めに定めた下記の取り組みを基に年度末に成果を検討した結果が下記の通りである。

評価項目	自己評価			学校関係者評価	
	評価	取組状況	取り組みによる成果	評価	意見
キリスト教教育でもある聖書への学びをより深め保育に活かす。	A	<div>・合同礼拝やクラスでの毎日のお祈りの中で、その月の聖句や聖話等子どもたち一人ひとりが理解できるよう話し方や言葉の使い方を深めるよう努めた。</div> <div>・年齢に合った聖話を選び、子どもたちの思いを聞きながら進めた。</div>	<div>・毎日の礼拝の中で自分の言葉でお祈りができるようになり、そのお祈りを通して子どもたちの心の成長を感じることができた。</div> <div>・子どもたちにとっては、聖書は毎日の生活の中でとても身近になっていて字が読めなくても持ち歩いたり、開いて読んだふりなどして時々モーセの十戒のわかっているところをとねえたりしていた。</div> <div>・子どもたちの心に聖話を通じて神様の存在が浸透していることが感じられた。</div>	A	<div>・日常生活で神様を感じられる保育していることに感心致します。</div> <div>・聖歌を歌ったり、お祈りの言葉を熱心に唱えたり子どもたちにとってキリスト教が心の拠り所になっているのかな。</div> <div>・字が読めなくても、持ち歩いたり開いたりすることで聖書が身近に感じられ、聖句・聖話等子どもたちにとって人として大事な「思いやり」を学べている。</div>
他の教師の指導や援助の方法を取り入れ、自身の保育の質を高めていく。	A	<div>・今年度は、経験年数5年目の先生2名が初めてクラスを持つことになり、色々なことにチャレンジし自分らしい保育をして自身をつけること又、その他の先生も自分の保育を見つめ直す為のレベルアップにつなげることを目標に各クラスが公開保育をしたり、一週間に一度の話し合いや行事が終わった後は反省会を密にした。</div>	<div>・担任が保育を見せ合いそれぞれのやり方を取り入れて子どもが主体である保育を考えながら進めることができた。</div> <div>・自分の保育について見つめ直し、良いところと改善点を保育に活かした。</div> <div>・常に向上心を忘れずに周りの先生達のアドバイスを聞き入れ保育をした。</div>	A	<div>・先生方が、園内研修や行事後反省会をしたりして日々子どもたちのことを考えながらよりよい保育に取り組んでいる。</div> <div>・クラスの枠組みを超えて教師の皆様が連携して協力し合っていることが伝わっている。年中行事の成功もチームプレー的な連携がある。</div> <div>・公開保育は担任の先生も大変だと思いますが、お互いのレベルアップにつながるので素晴らしいと思います。</div>

4. 総合的な評価結果    (A：十分に成果があった    B：成果があった    C：少し成果があった    D：成果がなかった)

評価	理由
A	<div>・子どもたちが聖句・聖話を通して神様の存在を感じられるように聖書や“キリスト教保育”を学び自分の言葉で子どもたちにわかりやすく伝えられるように努めることができた。</div> <div>・レベルアップにつなげる為に園内研修として各クラスの公開保育を行い、自身の保育の質を高めることができた。</div>

5. 今後の課題と具体的な取り組み方法

来年度への課題	来年度の具体的な取り組み方法
安全教育を学ぶ	生活安全・災害安全・交通安全等命を守る学びを身につける。